

○キバナハマヒルガオ日本に野生す (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: *Ipomoea tuba* (Schlech.) G. Don newly found in Japan

先年 (1985) の 1 月、小笠原に行った際、同行した都立大学的小林純子氏が父島の南島から、今まで小笠原で記録されたことのないヒルガオ科の植物を採集してこられた。その一部をもらって調べたところ、花も実もなかったけれど、キバナハマヒルガオ *Ipomoea tuba* (Schlech.) G. Don に一致することがわかった。これは小笠原だけでなく、日本で未記録の植物である。熱帯アメリカからアジア・アフリカの熱帯に広く分布するものであるが、あまり北上せず、琉球にはなく、台湾でも南部にしか見られない。ミクロネシアにはあるので、小笠原のものはそれと関連して広がっているものであろう。ただ小笠原では南島にしか見られないのは不思議である。南島の生育場所は特殊な環境で、広い砂浜はまわりを石灰岩の壁で囲まれ、南側に外海に通じる狭い入口があるだけなので、冬の寒い風が防がれる点では、小笠原でも他所にあまり例をみない所である。こうした環境が純熱帯性のこの植物の生育を可能にしているのかもしれない。

ところがこの発見は最初のものでなく、東京大学の標本を調べたところ、1920年に中井猛之進氏が同じ南島ですでに採集しておられることがわかった。不完全な標本なので学名を同定することがむずかしく、津山尚氏はこれをキバナハマヒルガオと同定しておられるが疑問符をつけていて、発表されなかったようである。現在では資料もかなり集まっているので、花がなくてもキバナハマヒルガオとしてまず間違いないと思う。小笠原が復帰した後は、この島は山羊に荒らされて、みるかげもない植生になっていて、キバナハマヒルガオなど見ることはなかった。数年前にここから山羊が駆逐され、それと共に植生もしだいに回復してきている。キバナハマヒルガオもそのひとつで、小笠原の植物を永年調べておられる豊田武氏は、最近これが南島でよく繁茂してきたと言われる。最近南島にこれが見られるようになったことは、新しく種子が運ばれて繁殖し始めたのか、もともとあったものが山羊の駆除によって再び繁殖してきたものか、いずれとも決めにくいが、後者の方が可能性が強いように思われる。

*Ipomoea tuba* (Schlech.) G. Don, Gen. Syst. 4: 271 (1831); Ooststroom in Fl. Malesia ser. 1, 4: 487 (1953).

Hab. Isls. Bonin, Isl. Chichijima, Minamishima (T. Nakai, July 5, 1920, TI; S. Kobayashi, Jan. 20, 1985, TI).

(東京大学 理学部附属植物園)